

障がいのある人の雇用に取り組む

株式会社しんやさい (京都市南区)

「京都はあとふる企業」です



【主な事業内容】

九条ネギ・聖護院大根・金時人参等の多品目な京野菜の栽培・販売

【障がいのある人の主な仕事】

農作業・収穫作業・袋詰め、出荷調整作業など

【障がい者雇用の経緯】

脱サラ後、4年間農業法人で修業、2017年に起業。起業時に修業時代同期の障がい者を雇用。当時、障がい者やその雇用への理解や知識が浅く、仕事の段取りの悪さに頭ごなしに注意してしまい関係が悪化・退職。これを反省し2018年に1名雇用。この社員に向き合う中で、特性の理解とその対応、得意なことを伸ばすことの大切さを学ぶ。2021年7月に1名雇用し、現在2名の障がいのある社員が働いています。また、特別支援学校や高等技術専門学校、地域の福祉事業所などの体験実習も受入れています。

【農福連携と地域づくりを目指して】

障がい者雇用では、無理のない勤務日数と時間から始めます。朝礼でホワイトボードに作業内容と優先順位を記載し説明します。男女別のトイレや更衣室の整備、重量物運搬での合理的配慮、得意なことを仕事に活かし長所を伸ばす取り組みを行っています。また、作業を分かり易くするために、例えばネギ苗の定植では、穴の空いたところに植えると等間隔に植えられる「穴あきマルチ」を使うなどの工夫をしています。

2019年には京都中小企業家同友会に加入し、ソーシャルインクルージョン委員会や地域の障がい者就労支援ネットワークに参加し活動を広げてきました。農業と農福連携の活動を通して、地域の生産者や販売・流通関係者、福祉事業所、特別支援学校などと連携し、食育や園芸療法なども視野に入れた地域づくりに貢献したいと考えています。



【Mさんに聞きました】

今年の7月から働いています。特別支援学校卒業後、乗馬クラブや農産物直売所で働きました。直売所では、接客やレジ、加工などを行い、コミュニケーション力が付きました。

農業がやりたくてここに来ました。肥料蒔きやネギ刈り・掃除等ですが、種まきは成長がみられ一番楽しいです。

長さや大きさを感覚的に言われると分からないが、周りの人はそれを理解して、具体的な物に例えて言ってくれるので助かっています。

農業は自分に合っているので、ずっとやっていきたいと思っています。

【Yさんに聞きました】

4年目です。園芸が好きで、高校の農業科を卒業後、花屋に就職。スタッフと上手く意思疎通が出来ず体調を崩し退職しました。医療機関での診断・リハビリを通して特性を整理することが出来ました。その後、農業分野の就労継続支援B型事業所に通い、適性の分析と改善、疲労感の自覚の仕方、SOSの出し方と相談、周囲への伝え方等を学び、訓練を通して課題に向き合うことに自信が持てるようになりました。

実習を経て就労しました。週1回半日から始まり週5日働けるようになりました。口頭説明や仕事の段取り、数字等が苦手なことを理解いただき、図形などによる視覚化、ホワイトボードや計量アプリ、肥料の希釈早見表の活用などをしてもらいました。絵が得意なのでPOP広告などを作成しています。サポートを受け運転免許も取り、軽トラの運転もします。野菜を育て人々に届け、喜んでもらえることが楽しいです。

代表の勧めもあり、「京の農林女子ネットワーク」、さらに全国の「農業女子PJ」に参加するようになりました。農福連携の活動を続けて、福祉施設の就労体験でピアサポート(同じような立場の人によるサポート)できるようになりたいです。